様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　７ 年　６ 月 ２７ 日現在

機関番号：３４４０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2024
課題番号：２０Ｋ０２３１１

研究課題名（和文）非正規シングル女性への「社会保障リテラシー」獲得による自立支援に関する研究

研究課題名（英文）Research on Supporting the Independence of Non-regular Single Women by acquiring "Social Security Literacy"

研究代表者
森　詩恵（MORI, UTAE）

大阪経済大学・経済学部・教授

研究者番号：３０３４１２８３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：非正規シングル女性の労働・社会保障・生活の実態を明らかにするため、webアンケート調査を2020年度、2024年度に実施した。非常に厳しい生活状況であり、「仕事」「生活費」に対する不安が高かった。非正規シングル女性が労働・生活リスクを把握し、持続可能な生活を実現するためには、「社会保障リテラシー」の獲得が必要であり、その支援プログラムを開発した。「社会保障リテラシー」とは、制度の知識を学ぶだけでなく労働・生活リスクの把握から相談相手や学ぶ場所、情報を得る場所を確保することができ、情報の更新、制度の利活用までを含み、今後はその獲得支援を行なっていく必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義
非正規シングル女性は、現在また将来に多くの労働・生活リスクを抱えているにも関わらず、未だライフステージのある時期の一時的な姿であるとして、本人及び行政がリスクに備える意識やその支援が不十分な状況である。非正規シングル女性が労働・生活リスクを認識し、生活展望の変化を遂げるために、そのリスクに対応できる「社会保障リテラシー」獲得による自立支援がその解決の一つとなる。本研究では、COVID-19感染拡大、そして鎮静後の非正規シングル女性の労働と生活実態を明らかにし、「社会保障リテラシー」の内容を明確にし、そしてその支援プログラムを開発した。また、非正規シングル女性支援の社会での意識醸成に取り組んだ。

研究成果の概要（英文）：In order to clarify the working and living conditions of non-regular single women, online questionnaire surveys were conducted in 2020 and 2024.The living conditions were extremely harsh, and there was a lot of anxiety about jobs and living expenses.In order for non-regular single women to understand the risks in their work and life and achieve a sustainable lifestyle, they need to acquire "Social Security Literacy," and we have developed a "Social Security Literacy" program."Social Security Literacy" does not just mean learning about the system, but also understanding work and lifestyle risks, having someone to consult with, places to learn, and places to obtain information, as well as updating information and making use of the system.In the future, it will be necessary to provide support for the acquisition of "Social Security Literacy."

研究分野：社会政策

キーワード：社会保障リテラシー　非正規雇用　シングル女性

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

（1）本研究の学術的背景

近年、その増加が著しい非正規労働者に関して、雇用・貧困問題など労働・社会保障政策の視点から多くの研究がなされている。政府は、非正規労働者への対策として無期転換の推進や厚生年金保険への適用拡大を実施し、「同一労働同一賃金」の実現に取り組んでいる。

しかし、現状は依然として非正規雇用の所得水準は正規雇用に比べて低く、そのため男女とも結婚をためらい、初婚年齢の上昇、婚姻件数・婚姻率の低下からシングル化が加速している側面もある。これは、1990 年代まで典型とされた＜就職から結婚、出産育児＞という家族形成のライフステージから逸脱した若者たちが一定の集団として顕在化しつつあることも示していよう。

このような状況でも、依然として女性はいずれ結婚し「他の誰かと生活を共にすれば、生活は比較的安定する」という意識が根底に残り、本人・家族及び行政も「非正規シングル女性」の現在・将来の生活リスクを自覚しづらい状況にあるのではないだろうか。また、厚生年金保険の給付額のように、本人の今の働き方が老後の生活に大きな影響を与えることや、主に家族単位で構成されている社会保障制度から対象外となりうる点を理解していない可能性も高い。さらに、「シングル」であっても生活リスクは本人自身のものだけとは限らず、シングルは家族内でも親の介護を担う可能性が高い。しかし、非正規雇用のためワークライフバランスも実行できず、離職せざるを得ない状況に追い込まれることも考えられる。これらの現状からも、行政の施策からこぼれ落ちていた非正規シングル女性の研究や施策が必要であり、地域ごとの実情を把握し、その解決に向けた支援が必要である。

（2）本研究の問い

前節の本研究の学術的背景から、２つの学術的問いを提示する。

①第 1 の学術的問いは、「非正規シングル女性」は、現在また将来に非常に多くの労働・生活リスクを抱えているにも関わらず、未だライフステージのある時期の一時的な姿であるとして、本人及び行政が生活リスクに備える意識や対策、その支援が不十分な状況ではないだろうか、という点である。

②第 2 の学術的問いとして、申請者が行った先行研究分析から、今後、「非正規シングル女性」が生活リスクの認識・生活展望の変化を遂げるためには、労働・生活リスクに対応できる「社会保障リテラシー」の獲得がその解決策の一つではないか、という点である。

２．研究の目的

本研究の目的は、労働と社会保障の視点から、非正規シングル女性の生活実態を明らかにしたうえで、労働・生活のリスクを認識し、その対策を講じられるよう「社会保障リテラシー」を獲得することの効果・意義とその自立支援政策を検討することである。具体的には、現在、行政の支援からこぼれ落ちている①「非正規シングル女性」に焦点をあて、②各研究者の専門性（労働・社会保障）を活かした二つの視点から、③全国規模のアンケート調査や労働組合・支援団体へのヒアリング調査により、その生活実態と課題を明らかにする。そのうえで、④「社会保障リテラシー」の獲得が労働・生活リスクの軽減と今後の生活展望に与える影響を検証するため、その学習内容・学習会プログラムを開発し、⑤今後の自立支援に向けた方策を導き出す。

３．研究の方法

(1)非正規シングル女性に対する労働・社会保障・生活の実態調査分析

①COVID-19 感染拡大時期における、非正規シングル女性の労働と生活実態（大阪市、札幌市、福岡市、30 歳代～50 歳代、合計 600 名）に関する web アンケート調査の実施。

②COVID-19 が第 5 類へ変更となった以降の非正規シングル女性の労働と生活実態（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、30 歳代～50 歳代、合計 300 名）に関する web アンケート調査の実施。

(2)「社会保障リテラシー」獲得に関する学習内容と学習会プログラムの開発

①支援団体等との研究会開催による非正規シングル女性の実情・支援課題の把握

②「社会保障リテラシー」の学習内容・プログラムの開発

③非正規シングル女性に対する講演会・ワークショップの開催

(3)「社会保障リテラシー」獲得に向けた支援政策の課題とその方策の明確化

アンケート調査、研究会、ワークショップ等から明らかになった非正規シングル女性の生活実態やその課題を総合的に検証し、非正規シングル女性の「社会保障リテラシー」獲得の効果検討と今後の支援政策を検討。

４．研究成果

（1）非正規シングル女性の労働と生活実態に関する調査結果(2020 年度、2024 年度)

COVID-19 禍以前の 2018 年度に大阪市で実施された Web アンケート調査「大阪市における非正規就業シングル女性の生活の現状と展望」の分析をもとに、COVID-19 感染拡大のなかで非正規

シングル女性に対する労働・社会保障・生活の実態把握のため、全国規模での web アンケート調査（「非正規雇用で働くシングル女性の労働・生活実態調査）を 2020 年度に実施した（大阪市、福岡市、札幌市の 30 歳代～50 歳代まで合計 600 名）。主な結果は、①非正規シングル女性は「個人年収 300 万円未満」が 86.4%を占め、さらに厳しい「個人年収 200 万円未満」は 48.7%、②非正規シングル女性は初職から「非正規雇用」が 57.3%、③非正規シングル女性の 62.6%が「自ら望んで非正規雇用を選択」、④雇用期間の定めがある非正規雇用シングル女性のうち約半数の 55.2%が現状から「変更を希望していない」、⑤非正規シングル女性 65.5%が「社会保障の知識を得たい」と回答したが、「どれに加入しているか分からない」が１割弱、⑥どの社会保障制度に関しても「詳しく知っている」人は、約 5～18%程度、であった。そして、⑦「現在(将来)に不安を感じていること」(複数回答) については、「現在（将来）に不安を感じているものはない」が 44.8%（37．1%）である一方、「仕事」が 34.2%（34.2%）、「生活費」が 29.4%（34.2%）、「自分の健康」が 24.8%（30.0%）であり、将来に不安を感じて状況がみてとれる。とくに、「家族の介護」は 11．0%（21．0%）と 10 ポイント上昇している。また、表１は、自由記述欄から抽出した「自分の働き方の現在や将来の生活、そして社会保障制度について感じていること」の内容である。各年代の共通項目については、「漠然とした不安」「制度に対する知識不足・不安」「制度に対する不信・不満」「学びの場所がほしい」等が挙げられた（表１）。

そして、COVID-19 禍から数年経過し、労働環境の改善に向けて最低賃金の引上げなどが本格的に実施された 2025 年１月時点での非正規シングル女性に対する労働・社会保障・生活実態の把握のため、2024 年度に近畿 2 府 2 県において実施した Web アンケート調査結果においても、①「個人年収 300 万円未満」が 87.7%を占め、さらに「個人年収 200 万円未満」は 63.4%と、厳しい生活状況が明らかとなった。

表１　「自分の働き方の現在や将来の生活、そして社会保障制度について感じていること（自由記述）」から導き出される要素

＜50代＞⑮相談相手 ⑯健康 ⑰貯蓄

＜40代＞⑭就職氷河期

＜30.40.50代＞
①漠然とした不安・分からない
②制度が分からない
③制度に対する不安
④手続きが複雑
⑤制度に対する不信・不満
⑥行動できていない
⑦学べる場所がほしい
⑧住まい
⑨介護
⑩生活
⑪労働
⑫結婚
⑬コロナ

(出典)「非正規雇用で働くシングル女性の労働・生活実態調査（2020）」

（2）「社会保障リテラシー」獲得に関する学習内容の明確化

①実際に非正規労働者の支援を行っている連合大阪、大阪労働局担当者と研究会を開催し、2020 年度調査結果の情報共有と担当者からみた現状・課題についてヒアリング調査を行い、非正規労働者、非正規シングル女性の置かれている状況の厳しさと多様な働き方の非正規雇用者が存在するなかでの支援の難しさが明確となった。

以上の Web アンケート調査及びヒアリング調査から、非正規シングル女性の仕事や生活不安解消に向けて、まず非正規シングル女性がその状況を認識し、私たちの労働・生活を支える労働法制や社会保障制度・税制度に関する知識の習得、相談相手とのつながり確保、そして制度の利活用までを一連の流れとした「社会保障リテラシー」の獲得が必要であることが明確となった（図１）。

（3）「社会保障リテラシー」獲得プログラムの開発

非正規シングル女性が自らの労働・生活状況を改善し、「生活サステナビリティ（持続可能）」を実現するためには、「社会保障リテラシー」の獲得が必要であるため、その獲得に向けたプログラム案を検討、実施した。2024 年度 Web アンケート調査対象者からプログラム参加者を募り 5 名が参加した。午前（3 人）・午後（2 名）とし、研究協力者の岸上真巳氏（大阪市男女共同参画センター、一般財団法人大阪男女いきいき財団企画調整課課長代理）をファシリテーター、本研究の研究者 2 名をアドバイザーとしてワークショップ形式で実施した。

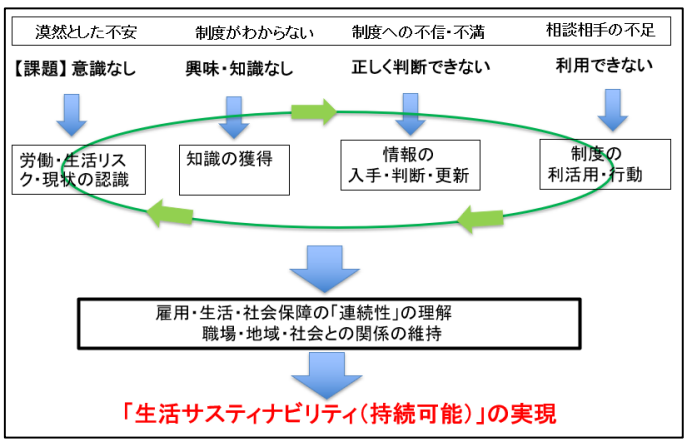

図１　社会保障リテラシー獲得サイクル

参加者（5 名）についてみてみると、「契約社員」が 2 名、「パートタイム労働者」が 2 名、「派遣労働者（登録型）」が 1 名、現在の勤め先の業種は、「金融業・保険業」が 1 名、「卸売・小売業」が 1 名、「教育学習支援業」が 1 名、「生活関連サービス・娯楽業」が 1 名、「公務」が 1 名であった。年齢構成は「30 代」が 1 名、「40 代」が 4 名、「50 代」が 1 名、最終学歴は「高等学校卒業」が 2 名、「各種学校・専門学校卒業」が 1 名、「短期大学・高等専門学校卒業」が 1 名、「大学卒業」が 1 名であった。個人の年収は、「100 万円以上～200 万円未満」が 2 名、「200 万円以上～300 万円未満」が 2 名、「400 万円以上～500 万円未満」が 1 名であった。また、現在「非正規雇用（正社員以外の働き方）」という働き方をどのように捉えているかについては、「自らが望んで選択した働き方である」が 4 名、「やむを得ず選択した働き方である」が 1 名であった。

プログラムの構成内容は、①ワークショップの趣旨説明（研究代表者）、②自己紹介、③グループワーク、④シェアリング、⑤労働法制・社会保障制度の情報提供と解説（研究代表者）、⑥参加者からの感想発表、とし１時間 30 分とした（15 分前から受付を開始）。ワークショップ終了後、Microsoft Forms にてワークショップに参加した感想等を収集した。

ワークショップでは、まず自己紹介を行い、①呼んでほしい名前、②今の仕事について（職種等）、③「社会保障」と聞き思いつく内容・キーワードを伝えてもらった。次に、グループワークを実施し、①4 枚のカード（Web アンケート調査及びヒアリング調査から導き出された「社会保障リテラシー」の構成要素である「漠然とした不安」「制度がわからない」「制度への不満・不信」「相談相手の不足」）のうち、「社会保障」と聞いたときの今の自分の気持ちを表す１枚を選び、②なぜそのカードを選んだかその理由、③カードに書いてあるキーワードについて自分の思いを報告してもらった。そして、それぞれの発表について共有し、意見交換を行った。その後、グループワークで共有した内容についての情報に重点を置きながら、労働法制・社会保障制度関係における情報提供のため資料を配布し、解説を行った。

プログラム実施の主な結果として、①参加者はすべて非正規シングル女性だが、最終学歴、現在勤めている業種、個人年収、現在「非正規雇用（正社員以外の働き方）」という働き方を選択した理由等さまざまであり、「非正規シングル女性の多様性」が明確となった。②「社会保障」と聞き思いつく内容・キーワードでは、「ぴんとこない」「もらえるものではない」「マイナス要素とは逆でポジティブな意味」「保険制度・子育て支援」「病院、介護休暇」といった「イメージや感覚的な内容」と「具体的な制度や仕組み」の回答であった。③グループワークでは、「制度がわかりにくく、その先が知りたいと思って調べてもわからない。あえてわかりにくくしているのでは・・と思う」という発言がある一方で、「社会保障制度を知らなくても困っていない」という声もあった。また、「ネット詐欺・給付金詐欺の心配もあり、情報検索で何を基準にするかが大切」「知識が必要」との声もあった。④ワークショップ終了後のアンケート（無記名）では、「ワークショップに参加する前と後で、社会保障やワークルールに対する考えがどのように変化したか」という質問については、「困る前に情報を知るようにアンテナを張る必要性」や「私が勉強不足なだけかと思っていたが、社会保障制度ってなんだろう？と思っている人は私だけではないと少し安心した」「たくさんの制度があることを知った」等、プラスの変化が見てとれた。「ワークショップに参加する前と後で、あなたの気持ちに変化があったか」という質問については、「危機感を持った方がいいかなと思った」「少し不安なことが解消された」「参加前は社会保障について無知なのは、勉強不足で少し恥ずかしいこと、のように思っていたが、ワークショップ参加後、悩んでいるのは一人ではない、ということを感じた」「今回、ワークショップに参加して社会保障制度に興味が湧いた」「いただいた資料をもとに自分でも調べてみようと思った」であった。また、少人数のグループで、アットホームな雰囲気・会場の設定が話しやすかったとの意見もあった。

（4）「社会保障リテラシー」獲得に向けた支援政策の課題とその方策の明確化

非正規シングル女性に対するアンケート調査及び支援団体等へのヒアリング調査から、非正規シングル女性の労働と生活実態を明らかにし、その支援策として「社会保障リテラシー」獲得の重要性を明確にすることができた。また、「社会保障リテラシー」は単なる知識や情報の獲得だけではなく、「雇用・生活・社会保障」の「連続性」を理解し、職場・地域・社会との関係の維持を土台として、労働・生活リスクの把握から制度の利活用までを含む内容として捉える必要がある。また、専門職、専門機関とつながることによって、相談相手や学ぶ場所、情報を得る場所を確保することができ、情報の更新、制度の利活用がうまく行えるような「社会保障リテラシー」の獲得支援を行なっていく必要がある。

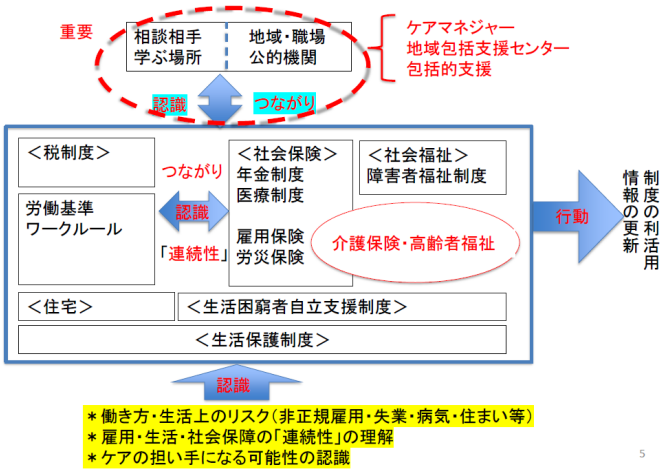

図２　自ら・家族を支える「社会保障リテラシー」獲得の重要性

（5）非正規シングル女性支援の必要性の意識醸成への取り組み

非正規シングル女性に対して、現在の労働・生活リスクを認識し、「生活サステナビリティ（持続可能）」の実現に向けて、講演会開催やワークショップへ参加した。講演会では、「シングル女性のための終活ー仕事・暮らし・生き方」と題したセミナーをクレオ大阪子育て館（男女共同参画セミナー）と共同開催し、対面（47 名）とオンライン参加（43 名）をあわせて 90 名の参加があった。このセミナーでは、シングル女性の生き方についての講演（読売新聞「シングルスタイル」編集長森川暁子氏）、研究代表者による 2020 年度調査の報告をもとにパネルディスカッション行い、シングル女性へその課題や対応策についての情報発信を行なった。そのほか、非正規シ

ングル女性の現状や課題に対する社会への情報発信としては、札幌市男女共同参画センター主催セミナー（「足元のジェンダーギャップを見つめる－札幌、北海道の課題とは」2023 年 7 月 19 日、オンライン）においての報告、岡山市・ジェンダー統計をかたろう会共催における講演（研究代表者「「非正規・シングル女性」が直面する課題」2024 年 3 月 10 日、さんかく岡山）をはじめ、朝日新聞 DIGITAL （2023 年 3 月 8 日「約半数が 200 万円未満　非正規シングルの苦境は自己責任なのか）等への掲載によって、社会における非正規シングル女性支援の意識醸成に向けた取り組みを行なった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 森詩恵	４．巻 2023年夏号
２．論文標題 「介護の担い手」からみた2024年介護保険改正の課題 ～「介護の社会化」の実現に向けて～	５．発行年 2023年
３．雑誌名 季刊 個人金融	６．最初と最後の頁 43－53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 森詩恵	４．巻 73巻2号
２．論文標題 非正規シングル女性の労働・生活状況と「社会保障リテラシー」ー2022年度非正規シングル女性実態調査をもとにー	５．発行年 2022年
３．雑誌名 大阪経大論集	６．最初と最後の頁 83ー98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24644/keidaironshu.73.2_83	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 森詩恵	４．巻 140
２．論文標題 家族介護者の現状と今後の支援 ー非正規シングル女性を中心に	５．発行年 2022年
３．雑誌名 女も男も	６．最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 森詩恵	４．巻 771
２．論文標題 介護保険制度のおける「介護の社会化」と家族介護ー高齢者の生活全体を支える介護支援とはなにか	５．発行年 2023年
３．雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	６．最初と最後の頁 44ー56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　6件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 森詩恵
２．発表標題 「介護の社会化」と家族介護
３．学会等名 岡山市・岡山女性フォーラム共催講演会（2023年6月24日、さんかく岡山）（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 森詩恵
２．発表標題 足元のジェンダーギャップを見つめる－札幌、北海道の課題とは
３．学会等名 札幌市男女共同参画センター主催セミナー（2023年7月19日、オンライン）（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 森詩恵
２．発表標題 介護離職をしないために～仕事しながら介護する準備できていますか～
３．学会等名 大阪市立共同参画センター子育て活動支援館主催セミナー（2023年12月23日、クレオ大阪子育て館（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 森詩恵
２．発表標題 「非正規・シングル女性」が直面する課題
３．学会等名 岡山市・ジェンダー統計をかたろう会共催講演会（2024年3月10日、さんかく岡山）（招待講演）
４．発表年 2024年

１．発表者名 服部涼子
２．発表標題 コロナ禍と非正規職シングル女性の労働と生活
３．学会等名 第145回社会政策学会秋季大会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 森詩恵・服部良子・岸上真巳
２．発表標題 非正規シングル女性の生活課題と社会保障リテラシー「2020年大阪・福岡・札幌調査」をもとに
３．学会等名 日本地域資源開発経営学会　第10回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 服部良子・森詩恵・岸上真巳
２．発表標題 非正規シングル女性の社会保障リテラシーと生活展望の考察　「2020年大阪・福岡・札幌非正規シングル女性調査」結果分析をもとに
３．学会等名 日本家族社会学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 服部良子
２．発表標題 非正規雇用の就労支援と働き方の変化
３．学会等名 社会政策学会関西部会
４．発表年 2021年

１．発表者名 森詩恵
２．発表標題 非正規シングル女性と社会保障リテラシー
３．学会等名 社会政策学会関西部会
４．発表年 2021年

１．発表者名 森詩恵
２．発表標題 ケアを担う人々への支援と課題　～非正規女性家族介護者の複合的困難～
３．学会等名 2021年度例会（第3回）フォーラム 労働・社会政策・ジェンダー（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 岸上真巳、中村聡衣、森詩恵、服部良子
２．発表標題 働き方と性別役割分担意識『2019年大阪市市民意識調査』結果の示唆する性別役割分担意識の現状と課題
３．学会等名 日本地域資源開発経営学会第9回全国大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 森詩恵
２．発表標題 社会保障と非正規シングル女性
３．学会等名 クレオ大阪子育て館・住まい情報センター共催セミナー「コロナ禍で見えてきた住まいと暮らしの不安～ひとり親家庭、非正規シングル女性のこれから～」
４．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

「非正規シングル女性」が直面する課題を調査。「社会保障リテラシー教育」による自立支援を提唱 https://www.osaka-ue.ac.jp/file/general/32800

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	服部　良子 (HATTORI RYOKO) (10183089)	大阪市立大学・大学院生活科学研究科・客員研究員 (24402)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関